

(公印省略)

28 農林試第 2730 号
平成 28 年 1 0 月 1 2 日

各関係機関団体の長 }
各病虫害防除員 } 殿

福岡県農林業総合試験場長
(福岡県病虫害防除所)

平成 28 年度病虫害発生予察特殊報第 1 号について

このことについて、本県でトマトフザリウム株腐病の発生を確認しましたので、病虫害発生予察特殊報第 1 号を発表し、送付します。

特殊報第 1 号

- 1 病虫害名 トマトフザリウム株腐病
- 2 学名 *Fusarium solani* f. sp. *eumartii*
- 3 対象作物 トマト
- 4 発生の経過と概要

平成 27 年 9 月から 12 月にかけて、県内のトマト栽培ほ場において、地際部や芽かき痕の褐変と萎れ症状を示す株(写真 1、写真 2)が発生した。

福岡県農林業総合試験場で分離培養を行ったところ、*Fusarium* 属菌が分離され、その PDA 培地での気中分生子柄や大型分生子の形態的特徴から *F. solani* (写真 3) と同定した。病原性の検定を行ったところ、病原性があることが判り、この症状は *F. solani* f. sp. *eumartii* によるトマトフザリウム株腐病である可能性が高いと判断した。

- 5 発生上の特徴及び症状

福岡の 7 月定植から翌年 6 月まで収穫する長期どり栽培では、9 月頃から地際部や茎の芽かき痕や収穫痕に濃い褐変病斑が発生する。その後気温が低下すると 3 月頃まで病勢は停滞するが、気温が上昇する 4 月以降になると病勢が進み、病斑部より上部が青枯れ症状の後枯死する場合がある。

病斑内部の維管束部は褐変するが、褐変は病斑近くに留まり(写真 4)、萎凋病のように広範囲に及ぶことはない。

6 防除対策

- 1) かん水等の水分がマルチ外に漏れ出ないようにし、施設内の多湿を避ける。
- 2) 定植前の土壌消毒の時間を十分長くとる。
- 3) 栽培終了後、培土や培地内の根などの残渣を取り除く。
- 4) 生産資材を消毒する。

(登録農薬は、独立行政法人農林水産消費安全技術センター (FAMIC) の農薬登録情報提供システム <http://www.acis.famic.go.jp/searchF/vt11m001.html> 等を参照)。



写真1 地際部の褐変症状



写真2 芽かき痕の褐変症状



写真3 トマトフザリウム株腐病病原菌
小型分生子と分生子柄



写真4 茎内部維管束部の褐変症状